

モンローとアヤクーチョの間で

カサ・デ・ラス・アメリカスの宣言

2024 年 6 月 11 日

今日ベネズエラで争われているのは、まさにモンローかアヤクーチョか、という選択である。

一つの亡霊が、世界を駆け巡っている。それは極右の台頭であり、歴史の教科書から追放されたと思っていたファシズムの台頭である。ほぼ 1 世紀前と同じように投票箱で支持された彼らは、最も恥知らずな一面を見せるために隠れることはない。最も公然と犯罪的な一面はガザに残され、そこで世界は再びジェノサイドの証言者となっているが、西側の大部分は、共犯者か、臆病者となっている。

悪夢はヨーロッパ全土に広がり、アメリカの上空を漂い、ボルソナロという猥雑な存在に、今はより危険で醜悪な人物のミレイの存在苦しめられている、ラテンアメリカに到達している。

極右が、陳腐なフレーズをつぶやく段階を過ぎて、市民にとって重要な問題で主導権を握るようになったことを無視するのは無責任である。「文化戦争」として理解されるもの、すなわち、経済的、政治的、社会的、または文化的な権利の要求に対する戦いを掲げる、この新しいファシズムは、どんな基本的な権利であってもそれに反対し、今、その勢力を拡大しており、自信に満ち、歓喜している。

このような大きな不穏な背景の中で、メキシコの選挙におけるクラウディア・シャインバウムの圧倒的な勝利は勇気づけられるものであり、前任者の功績を認め、ラテンアメリカ主義者の使命と貧しい人々への約束を支持するものであり、次期大統領もそれを引き継ぐだろう。

7月28日、ポリーバル革命を先導し、21世紀の社会主義を主張した指導者ウーゴ・チャベスは70歳を迎える。まさにその日、ベネズエラでは総選挙が行われ、十数人の候補者ではなく、本質において、社会のための2つの計画が対決する。世界の最も強力なメディアはすでに候補者を決めている。明らかに、反革命のそれだ。野党のお気に入りの候補者、そしてとりわけ野党の指導者（帝国のお気に入りのカード）は、外国の立法府、報道機関、デジタルプラットフォームの両方でスペースを独占し始めている。暗殺と侵攻の失敗、暴動とテロ、制裁と国の資源の窃盗、さらには国民不在の偽大統領という茶番劇の後、メディアの猛攻撃は激化している。

失脚させる機械はすでに動き出している。たとえば、スペインの有力紙は、「欧州連合（EU）のオブザーバーが不在のため、選挙はしっかりと監視のないまま行われる」という毒のある疑惑をすかさず織り込んでいる。他のメディアはすでに、不利な結果を無視する論拠として、また不信の風潮を生み出す一因として、いわゆる「統一民主主義プラットフォーム」に勝利を与えるという仮定の世論調査を流している。今後数週間、選挙運動がトーンを上げ続けることは誰の驚きでもないだろう。ベネズエラの右派は、勝利の準備よりもむしろ、不正行為の告発を開始する準備ができていようだ。これは間違いなく、少なからぬ政府やメディアの即時かつ熱狂的な支持を得るだろう。これは私たちがよく知っているシナリオだ。

ラテンアメリカ・カリブ海諸国の歴史は、何世紀にもわたり国民が受けてきた虐待と、自由を求めて血と弾丸で戦ってきた戦いの間で揺れ動いてきた。昨年が帝国の選択肢を象徴することになるモンロー・ドクトリンの200周年であったとすれば、今年は南米の独立を決定づけたアヤクーチョの戦いにあたる。これは単なるポリーバル革命の候補者とその対抗者の間の争いではない。覇権

主義メディアの攻撃により、今日ベネズエラで争われているのは、まさにあの二つの選択肢のいずれかであることを忘れさせない。それは、モンローかアヤクーチョか、という選択である。

カサ・デ・ラス・アメリカスは、私たちのアメリカの文化的解放の計画に 65 年間忠実であり、世界の知識人、特にこの地域の知識人に対し、私たちの兄弟国で起きている出来事、地元と世界の右翼の策動を注意深く見守り、ベネズエラ国民の主権的決定を篡奪しようとするいかなる試みにも警戒するよう呼びかけるものである。

ハバナ、2024 年 6 月 11 日